

“読書”と“ネット”講演会（ネイパルブックワールド併催事業）

■ 事業のねらい

読書が子どもの成長に与える影響や子どもが接するさまざまなメディアに対する理解を深めるとともに、メディア利用を含めた望ましい生活習慣の改善・定着に向けた意識を高める。

■ 実施日 平成27年10月10日（土）

■ 参加対象 ネイパルブックワールド参加者保護者、一般

■ 参加実績 参加者9名

■ 備考 会場～釧路市立釧路図書館4階会議室



1 事業実施の背景

子どもたちの成長において、幼いときからの読書習慣は想像力や理解力、語彙力、コミュニケーション能力を育むために重要であることは広く認識されている。一方、子どもたちのこうした力を高めることは、メディアの利用者が低年齢化する中でインターネットにおけるリテラシーの獲得、通信メディアの利用において適切なコミュニケーションを図る能力などメディアを利用する際の能力と直結するものであり、どちらのテーマも子育てをする際の重要な要素となっている。こうしたことから読書をテーマとした主催事業「ネイパルブックワールド」に併催して、「読書」と「ネット」という子育てに関わる2本の講演を柱とする保護者向けの学習機会を設定した。

2 プログラムデザイン

	9	10	11	12
10/10 (土)		受付 開会式	講演①	講演② 閉会式

講演①「生きる力と読書」講師：釧路市教育委員会生涯学習部生涯学習課

生涯学習担当課長補佐 高木 まみ 氏

講演②「電子メディアの利用のマナーと正しい使い方」講師：KDDIケータイ教室認定講師

佐々木 章吉 氏

■ アクティビティについて



■ 意図

家庭における読書習慣の大切さを再認識するとともに、メディアを使用することへの意識の醸成を図る機会とする。

■ 留意事項

参加対象者が幼児から小学生の子どもを持つ保護者であることを講師に伝え、講演内容が参加者の求める内容と合致するようにした。

### 3 活動の様子



(講演1の内容)

- ・絵本「かずあそびウラパン・オコサ」の読み聞かせ。(かずあそびを体験)
- ・読書は知識を得る、感情を育てる、想像力(イメージする力)を育てる。  
(例えば、ウラパン・オコサのかずあそびで子どもは二進法の原理を知らず知らずに体得している)
- ・読み聞かせの効用～親と子で共有できるすばらしい時間、幸せ感のある思い出、人間に対する信頼感をつくる。
- ・子どもの成長と読書～(就学前)読み聞かせ、(低学年)一人読みが始まる、(高学年)読書の好み、広がりが出てくる。
- ・読書で培われる思考する力を基盤として、生きていくために自ら考える力が生まれる。このことはメディアを使う際の、例えばスマホを自分で考えて使う力、自分で判断して使う力ともつながっている。



(講演2の内容)

- ・小・中学生のスマートフォン等の通信機器の所持率が全国的にあがっており、「持たせるか、持たせないか」から「持たせるとすればどのように使わせるか」ということが保護者の皆さんの課題になっている。
- ・ネット依存の問題～ON/OFFの管理ができない、携帯に夢中で手放せない～その結果、睡眠不足、ゲームなどの課金が増大する。
- ・(対策)使う時間や場所、ルール作りをすることが大切。その際、押しつけではなく子どもと親と一緒に考えること、大人が手本となることが大切。
- ・他にも、コミュニケーション能力が未熟なために生じる誤解がいじめにつながった例、写真をネット上に投稿することで損害賠償を請求された例、ネットから犯罪に巻き込まれた例について説明。
- ・保護者として大切なことは、困ったときは必ず守ってあげて子どもに伝え、親に相談させるようにすること、問題が生じたときは証拠を残さずすぐに専門機関に相談すること。



### 4 参加者の変容等の成果

(読書について)

- ・低学年までの読書習慣、とても大事なことだとわかりました。
- ・情報に向き合うためのベース作りとして必要。このベースがしっかりと生きていけばネットに関することも色々(トラブルがあっても)回避できると思う。
- ・上の子には読み聞かせに力を入れてやっていたのですが、下の子にもっと時間を使おうと思いました。
- ・好きな本、心に残っている本を作れるとよいと思います。

(ネット利用について)

- ・大人のマナーが一番大事ということにハッとしました。まだ通信機器は持たせていないが、持つときには親も子ども納得できるルール作りをするべく、しっかりと話し合えるようにしたい。
- ・大人が見本となれる使い方を考えようと思いました。
- ・通信機器はまだ持たせられない。話し合う力、その話し合いができる力を持った時が、持てる時なのかもしれない。

### 5 事業を終えて

講演の内容について参加者の事後アンケートからは高い評価を得たが、参加者数が9名と少なかったことが課題として残った。読書活動が子どもたちに与える影響について、メディアとの向き合い方といったテーマは子育てにかかわっている保護者にとって潜在的なニーズはもっと多いと考えられるため、今後は募集に係る情報宣伝の手法の工夫が必要である。



